

2. 2016（平成 28）年度大学認証評価結果 努力課題への対応について

※基準	部局	努力課題	対応状況	今後改善すべき点
4 教育内容・方法・成果（4）	先端科学技術研究科	先端科学技術研究科の博士課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し「課程博士」として学位を授与していることは適切ではない。課程博士の取り扱いを見直すとともに、課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進するよう、改善が望まれる。	「在籍関係がない状況での課程博士の学位授与」については、2016（平成 28）年度において、まずは先端科学技術研究科委員会メンバーへの理解を促進させ、具体的な検討は、2017（平成 29）年度研究科委員会への申し送り事項とした。「早期修了の明確な基準」については、「博士課程早期修了に係わる申し合わせ」を制定し、2016（平成 28）年度入学者から適用した。	2017（平成 29）年度先端科学技術研究科委員長及び事務局の交替に伴い、在学生に影響を及ぼさないことを第一に、「在籍関係がない状況での課程博士の学位授与」について、2017（平成 29）年度内に研究科運営委員会および研究科委員会において検討を進め、解決を図る。
5 学生の受け入れ	工学部	工学部において、収容定員に対する在籍学生数比率が、電気電子工学科で 1.21、機械工学科で 1.21、情報通信工学科で 1.23 と高いので、改善が望まれる。	2016（平成 28）年 5 月現在の在籍学生数比率は、電気電子工学科 1.20、機械工学科 1.23、情報通信工学科 1.20 と引き続き努力が必要な数値となっている。ただし、2016（平成 28）年度に実施した 2017（平成 29）年度入試の入学定員超過率は、機械工学科は 1.14、情報通信工学科は 1.09 と改善が数値として表れている。なお、電気電子工学科は入学定員超過率 1.22 のため、努力が必要である。ただし、電気電子工学科の場合、2016（平成 28）年 5 月現在の、電気電子システムコース在籍学生数比率は、1.16、電子光情報コースは 1.20 となっている（そのほかコース制になる前の学生（2011（平成 23）年度以前に入学した学生）が 23 名いる）。そのため、電気電子システムコースにおいて、在籍学生数比率による教育の影響は抑えられていると言える。また、電子光情報コースの在籍学生数比率 1.20 だが、2017（平成 29）年度入試における電子システム工学科の入学定員超過率は 1.09 であるので、改善が数値として表れていると言える。	文部科学省や日本私立学校振興・共済事業団による入学定員超過率の厳格化傾向もあるが、重要なことは定員超過となったとしても、充実した教育を行い、教育の質保証を行うことである。在籍者数比率による超過は、単年度の施策実行だけで効果が表れるものではなく、継続実行が必要であるが、それまでの間、教育の充実等により、超過による影響を解消するための事項を実施する。

※基準について（以降のページ同様）

（公財）大学基準協会大学認証評価（2011（平成 23）年度～2017（平成 29）年度）によって定められている次の基準を示す。

- | | | | | | |
|--------------|------------------------------|---------------|-------------|-----------|-----------------|
| 1 理念・目的 | 2 教育研究組織 | 3 教員・教員組織 | | | |
| 4 教育内容・方法・成果 | (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 | (2) 教育課程・教育内容 | (3) 教育方法 | (4) 成果 | |
| 5 学生の受け入れ | 6 学生支援 | 7 教育研究等環境 | 8 社会連携・社会貢献 | 9 管理運営・財務 | (1) 管理運営 (2) 財務 |
| 10 内部質保証 | | | | | |